

大阪NO₂簡易測定運動(ソラダス)継続のために分光光度計購入のための募金訴え

(分科会Ⅱの「大阪の大気汚染とソラダス (NO₂測定運動) の意義」の資料も参照)

2015年2月1日

大阪から公害をなくす会

ソラダス委員会委員長 久志本俊弘

- 1978年に第1回大阪NO₂簡易測定運動(以下ソラダスと略す)して以来、1984年、1989年、1994年、2000年、2006年とほぼ5～6年に1回の割で実施し、前回2012年5月に第7回取り組み
- また、市民生協や道路問題などを抱えている地域では、毎年6月と12月の2回自主測定している。
- 継続について議論を重ね、NO₂測定運動の果たしている意義を考え、引き続き取り組むことを確認し、30年近くも使い老朽化した検査機器も買い替えることにし、そのために広く団体・個人に募金を訴えることを決めました。

ソラダス(カプセル法)の意義

NO₂大気汚染における問題点

- 近年NO₂の大気汚染は改善されてきており、行政によってNO₂環境基準が達成された、との認識のようであるが、
- **住民が健康を心配**せずに済むほど汚染が改善されたかどうか？
- このNO₂は化石燃料を燃やした際に出る様々な排ガスの代表・指標としてみることはできるが、その他の有害な廃ガス、PM2.5などはどうなっているのか？

カプセル法の第1の特徴

- 大阪府域には自治体監視局は約100か所あるが、行政はこれら監視局測定値のみをもって、NO₂環境基準（日平均98%値で0.04～0.06ppm）の上限値を基準にして評価しているに過ぎない
- 0.04ppmを超えている自治体監視局が少なからず存在している
- 港区・大正区の43号線沿道は、高濃度の汚染地域が多数あるが、港区には測定局がゼロ

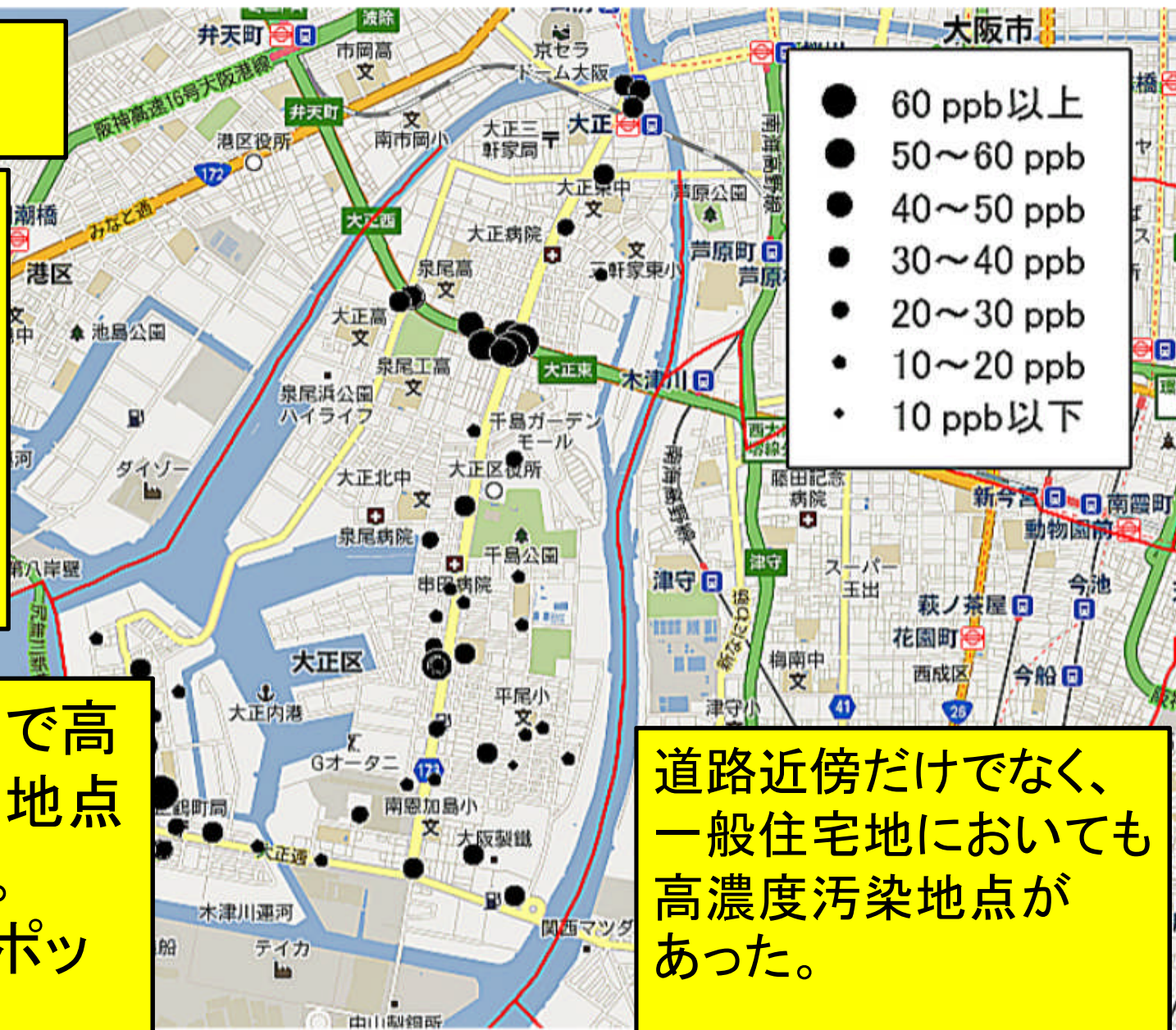
大正区

自治体監視局は、平尾小学校の位置のみ

道路近傍で高濃度汚染地点があった。
(ホットスポット)

- 60 ppb以上
- 50～60 ppb
- 40～50 ppb
- 30～40 ppb
- 20～30 ppb
- 10～20 ppb
- 10 ppb以下

道路近傍だけでなく、一般住宅地においても高濃度汚染地点があった。



- 主たる汚染源は
- デイゼル大型自動車、固定発生源
- また、大阪では港湾活動の影響もあり
- ために幹線道路沿道や交差点、港湾周辺地域などで局地汚染が存在するが、
- 100か所の監視局ではきめ細かい汚染実態は捉えきれない
- ⇒カプセル法は激しい汚染地点(ホットスポット)を把握できる

カプセル法の第2の特徴

- カプセルによる測定という簡単な方法でNO₂濃度が測れ、
- しかもそのデータは正確で、
- なにより、府下の約4000名が一斉参加して環境測定を行うものは、ほかに見られない
- 若い人、新しい人に環境問題を身近に感じ、関心を持ってもらうきっかけとなっている。
- その中で様々なネットワークができています。

第3の特徴

同時に行う健康アンケート調査

- 行政は、住民の健康調査などを行うことなく、環境基準の行政的運用によってNO2汚染状態を評価
- しかし例えば学校保健統計によれば**大阪の児童・生徒のぜん息罹患率は全国平均よりずっと高く**、現在もなお増加傾向にあるのである。
- ソラダス2012でのアンケート結果では、数多くのぜん息患者(府下推計7万人)が存在。
- 主に自動車排ガスなどの「公害」による健康被害であり、国と各自治体、そして、自動車メーカーなどによって医療費助成などの健康被害補償の措置が実施されるべきです(東京と同じように)。

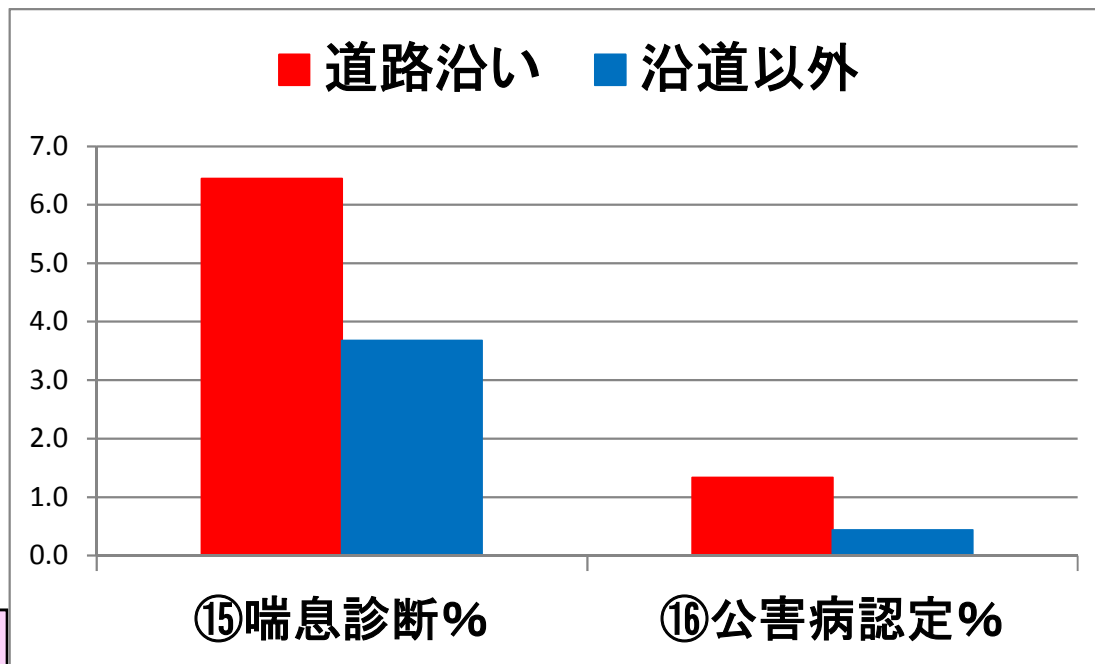
ぜん息診断率は幹線道路沿道の方が高い

(ぜん息診断率：医師にぜん息と診断されている回答者の%)

ソラダス2012の健康アンケート結果より
(回答者は府内4444人)

道路沿い居住者の方が、ぜん息診断率、公害病認定率ともに高い。

行政担当からの、「貴重な取り組み」と言われた調査



道路からの距離	⑮喘息診断%	⑯公害病認定%
道路沿い	6.4	1.3
沿道以外	3.7	0.4

第4に、府市民が自ら測定したデータを用いて行政と対話

- ソラダスの結果は、各地域で住民と行政担当者などが大気汚染・環境問題について懇談する貴重な素材。また、ソラダスの取り組みは地域でのネットワーク・パイプづくりもなっている。
- なお、行政による正確できめの細かい監視は環境行政の基本。測定体制と健康モニタリングは縮小ではなく、拡充・強化する必要あり、監視業務の独立行政法人化や民営化はしてはならない。

今後の方針

- 基本的には、大阪府全体をメッシュに区切って測定する**メッシュ測定**と、それぞれの団体・課題で取り組む**自主測定**の**2本立て**で、大気汚染の実態を面として明らかにするソラダスを継続する。
- 頻度は**4年に1回**とし、次回は2016年の5月に実施する。その間は、毎年6月と12月の2回、自主測定としてNO₂濃度の測定運動に取り組む。
- 現在使用の検査機器(島津製)はもう**修理部品もない**ほど古く限界に来ている。募金を訴えて新しい検査機器を購入する。

購入する検査機器と募金の訴え

- 「マイクロプレートリーダー」という機器で、これまでのカプセルを1個ずつでなく、カプセルの液をプレートの穴に移し替え、一度に約96個を30秒で測定するもの。購入金額2セットで約100万円。
- それで、これを目標にした募金を訴えます。NO₂簡易測定運動に欠かせない検査機器の購入費用としての募金にご協力をお願いします。
- これまでは、民医連検査機器にて実施していたが、今回の迅速に行える装置の導入で、長期に分析でき、作業性も改善し、データ処理、結果の画像表示などの電子化手法の改善もできる。

NO₂簡易測定(ソラダス)の概略



各地域・団体に一斉にカプセルを設置し、24時間後に回収します。

検査センター(OML)に集中
します。通常の際は「公害をな
くす会」に送ります。

健康アンケートを全
ての地域から出来る
だけたくさん集めま
す。前回のソラダス
では4400人余か
ら寄せられました。



各カプセルのNO₂濃度のデータ

データをデータベース化します。従来はデータ
を手入力してデータベース化していましたが、
新しい吸光度計ではデータをUSBで取り出
し、そのまま活用できるようになります。

結果(データ)をそれぞれ
の地域・団体に返し、地図
に落とすなどして汚染度
を比較・検討します

大気汚染と健康・呼吸器系疾
患との関係をクロス集計し、
相関を調べます。

独自開発のソフトを使っ
て、地図に分かり易くプロ
ットします。

当日の気象状況やNO₂濃度の分布の分析、地域的な特徴、NO₂濃度と呼吸器系疾患と
の相関関係の分析、大阪府および各地域の課題などをまとめ『報告集』を作成します。

作成した『報告集』を活用して、各地域や団体に報告会を開いたり、それぞれの地域で
行政の担当者との懇談を行うなどして、環境改善の取り組みに生かしていきます。